

実えんどう

農薬取締法上、「実えんどう」は「さやえんどう」や「えんどうめ」とは別の作物である。

(さやえんどうの項 参照)

「実えんどう」には、「実えんどう」「豆類（未成熟）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

						月											
作型・病害虫名						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋 ま き																● ●	
											収穫					は種	
苗立枯病(リゾクトニア菌)																— —	
うどんこ病								— —									
褐斑病								— —	— —								
ウイルス病								— —	— —								
アブラムシ類								— —	— —								—
ナメクダリエ								— —	— —								—

苗立枯病

留意事項

- 1 バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤は、リゾクトニア菌に有効である。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 本ぽを土壤消毒する。(XⅢ土壤消毒 2土壤病虫害等を対象とした薬剤による土壤消毒(4) 参照)
- ・ バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 <—>
- 【リゾクトニア菌 20~30kg/10a 所定量を均一に散布して土壤と混和する
は種または定植21日前/1回】

うどんこ病

留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 QoI剤≪ 1 1 ≫、SDHI剤≪ 7 ≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 密植を避け、通風を良くする。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 窒素質肥料の過用を避ける。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [サンヨール](#) <M 1> 【500倍 前日／4回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【3000～5000倍 前日／5回】
 - ・ [シグナムWDG](#) << 1 1 >> << 7 >> 【1500～2000倍 前日／2回】
 - ・ [ガッテン乳剤](#) <U 1 3> 【5000倍 前日／2回】
 - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <—>
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく）300～600倍 前日／—】

褐斑病

防除方法

- 1 被害株は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 密植を避け、通風を良くする。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【2000倍 前日／3回】

ウイルス病

留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。
- 2 生育初期にアブラムシ類の防除に努める。

防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。
【アブラムシ類の項 参照】
- 3 除草を徹底する。

アブラムシ類

留意事項

- 1 アドマイヤー1粒剤の成分イミダクロプリドの総使用回数は3回以内（定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内）。
- 2 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ [アドマイヤー1粒剤](#) <4 A>

【豆類（未成熟、除えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめ） 3kg/10a

まき溝土壌混和 は種時/1回】または

【豆類（未成熟、除えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめ） 2g/植穴（ただし、6kg/10aまで） 植穴土壌混和 定植時/1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A> 【2000倍 前日/2回】・ [コルト顆粒水和剤](#) <9 B>

【豆類（未成熟、除さやいんげん） 4000～6000倍 前日/3回】

・ [ウララDF](#) <2 9> 【2000～4000倍 前日/2回】・ [オレート液剤](#) <—> 【野菜類（除いちご） 100倍 発生初期～収穫前日/—】

ナモグリバエ

留意事項

1 散布開始適期は3月下旬である。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [アフーム乳剤](#) <6>

【豆類（未成熟、除さやいんげん） ハモグリバエ類 2000倍 3日/2回】

・ [プレバソンフロアブル5](#) <2 8> 【ハモグリバエ類 2000倍 前日/3回】・ [プレオフロアブル](#) <UN>

【豆類（未成熟、除さやいんげん） ハモグリバエ類 1000倍 前日/2回】

・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【ハモグリバエ類 5000倍 前日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。